

# 目 次

I	学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
①	学生確保の見通し	1
ア)	定員充足の見込み	1
(1)	入学定員及び収容定員	1
(2)	アンケート調査等を踏まえた見込み(まとめ)	1
イ)	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
(1)	山口連獣における入学者の実績	2
(2)	アンケート調査の実施	3
(2-1)	在学生へのアンケート調査の結果	4
(2-2)	社会人へのアンケート調査の結果	5
(2-3)	国外獣医系大学へのアンケート調査の結果	7
ウ)	学生納付金設定の考え方	7
②	学生確保に向けた具体的な取組状況	8
(1)	学生の確保	8
II	人材需要の動向等社会の要請	9
①	人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(概要)	9
②	上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである ことの客観的な根拠	9
ア)	人材需要の動向と社会の要請(まとめ)	9
イ)	人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠	10
(1)	人材の養成に関する社会的な要請	10
(2)	山口連獣における修了者の実績	12
(3)	企業等へのアンケート調査の結果	14
(4)	国外獣医系大学へのアンケート調査の結果	17

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### I 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ①学生確保の見通し

##### ア) 定員充足の見込み

##### (1) 入学定員及び収容定員

山口大学大学院・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科における、入学定員は、表1のとおり、山口大学6人、鹿児島大学6人の合計12人、収容定員は全体で48人と設定した。

表1：入学定員及び収容定員 (単位：人)

大学名	定員	
	入学定員	収容定員
山口大学	6	24
鹿児島大学	6	24
計	12	48

##### (2) アンケート調査等を踏まえた見込み(まとめ)

現在、山口大学及び鹿児島大学は、山口大学大学院連合獣医学研究科(以下「山口連獣」という。)の基幹校及び構成校として獣医学分野の研究者養成を行っている。両大学による新たな共同獣医学研究科における入学定員の設定にあたり、学生確保の見通しを明らかにするため、山口連獣における過去5年間の入学者の実績を踏まえつつ、平成28年10月から11月にかけて、山口大学・鹿児島大学共同獣医学部在校生(3～6年生)、社会人(獣医師会、地方自治体、NOSAI、関連企業等)、国内外獣医系大学にアンケート調査を行った。その結果、共同獣医学部在学学生(224人)、獣医関係社会人(1,800人)、国内獣医系大学(151人)、及び国外獣医系大学(176人)、合計2,351人からの回答を得た。

山口連獣における過去5年間の平均入学者数は、山口大学10.0人、鹿児島大学5.8人、2大学15.8人であった(表3)。

共同学部に接続した共同研究科を設置することで、卒業生は母校の大学院への進学が可能となり、学部からの内部進学希望者が増えることが期待される。山口連獣における学部からの内部進学者数の5年平均は、山口大学3.4人、鹿児島大学1.0人、2大学4.4人となっている。共同獣医学部3～6年生に実施したアンケート結果によると、各大学における新たな内部進学希望者数は、山口大学-0.6人、鹿児島大学2.0人、2大学1.4人と見込まれた(表7)。

地域密着型の共同研究科を設置することによって、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数の見込みが増えることが期待される。山口連獣における山口県在住社会人の山口大学入学者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学入学者数は、それぞれ0.6人及び1.2人となっている。新たな共同獣医学研究科について社会人に実施したアンケート結果では、新たな山口県在住社会人の山口大学入学希望者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学希望者数は、それぞれ山口大学-0.1人、鹿児島大学0.5人となった(表11)。また山口連獣における両大学への全国からの社会人入学者は5.8人で

あったのに対して、同アンケートにおける全国社会人の本共同獣医学研究科への入学希望者も 5.8 人であり、共同研究科においても全国からの社会人入学者数を山口連獣と同程度に確保できることが想定された（表 11）。

山口連獣の修了生による海外ネットワーク等の活用により、新たな共同獣医学研究科においても海外からの多くの留学生を引き続き入学者として受け入れることができると期待している。山口連獣における留学生数の平均は、山口大学 2.6 人、鹿児島大学 1.8 人、2 大学 4.4 人となっている。海外ネットワークを通じて行った外国人を対象としたアンケート結果では、留学生の共同研究科への入学希望者数は 13.9 人であり、新たに 9.5 人の新規留学生の入学希望が見込まれる（表 12）。

以上、表 2 に示すように、山口連獣の実績に加えて、内部進学者数、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数、及び山口連獣修了生による海外ネットワークを通じた留学生入学者数が増える見通しであり、山口大学大学院共同獣医学研究科及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科の入学定員を各 6 人としたときに、志願倍率は少なくとも、山口大学 1.55 倍、鹿児島大学 1.38 倍、2 大学合わせて 2.23 倍が見込まれる。よって、共同研究科において設定した入学定員については、構成大学のいずれも適切な選抜が行われた上で、質を担保しつつ安定的に確保することが可能である。

表 2：総表（1 年あたり）

（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2 大学
山口連獣の実績(表 3)	10.0	5.8	15.8
新規内部進学見込者(表 7)	-0.6	2.0	1.4
同県在住新規社会人入学見込者(表 11)	-0.1	0.5	—
全国社会人入学見込み者(表 11)	—	—	0.0
新規留学生見込者(表 12)	—	—	9.5
合 計	9.3	8.3	26.7
入学定員	6	6	12
志願倍率	1.55	1.38	2.23

## イ) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の「議論のまとめ」（平成 26 年度）によると、平成 21～25 年度の獣医系大学院への入学者数は 679 人（日本人 520 人、留学生 159 人、年平均 135.8 人）であり、国内大学を卒業した者が全体の約 4 割、国内の社会人経験者が約 3 割強、外国からの留学生が約 2 割強という構成比となっている。この構成比の大学ごとの特徴は比較的顕著であり、多くの私立大学の大学院が国内大学からの進学者によって占められている一方、国公立大学の中には、社会人経験者を多く集めている大学院や、留学生の構成比が高い大学院も見受けられる。

### (1) 山口連獣における入学者の実績

平成 24～28 年度における山口連獣の両大学への配置学生に係る実績としての平均入学者数は、表 3 に示すように、山口大学 10.0 人、鹿児島大学 5.8 人、合計 15.8 人であり、今回設定した入学定員数（12 人）を上回る入学実績を既に有している。

表3：山口連獣入学者等の実績

(単位：人)

区 分	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平均入 学者数
	志願 者数	入学 者数	志願 者数	入学 者数	志願 者数	入学 者数	志願 者数	入学 者数	志願 者数	入学 者数	
山口大学		9 (3) <1> [5] {1}		9 (2) <4> [1] {1}		8 (2) <1> [4] {0}		13 (5) <3> [5] {0}		11 (5) <4> [1] {1}	<b>10.0</b> (3.4) <2.6> [3.2] {0.6}
鹿児島大学	19	6 (1) <1> [4] {3}	19	6 (2) <2> [1] {0}	21	7 (2) <3> [2] {0}	20	4 (0) <1> [2] {1}	20	6 (0) <2> [4] {2}	<b>5.8</b> (1.0) <1.8> [2.6] {1.2}
鳥取大学		4		4		6		3		3	<b>4.0</b>

※ 上記人数は4月入学及び10月入学の合計である。

※2 ( )内は同大学共同学部からの内部進学者で内数、< >内は留学生で内数、[ ]内は社会人で内数、{ }内は同県在住社会人で内数である。

山口大学から山口連獣への内部進学者数は、過去5年間に2～5人で推移しており、平均は3.4人であった。一方鹿児島大学からの内部進学者数は、0～2人で推移し、平均は1.0人であった。山口大学及び鹿児島大学における留学生数の5年平均は、それぞれ2.6人及び1.8人であり、2大学で4.4人となった。山口大学及び鹿児島大学における社会人入学者数の5年平均は、山口大学と鹿児島大学で、それぞれ3.2人と2.6人、2大学で5.8人であった。社会人入学者の中でも、大学院の設置県（山口大学であれば山口県、鹿児島大学であれば鹿児島県）からの社会人入学者数は、それぞれ0.6人と1.2人であった。以上の実績を基に、新たな共同獣医学研究科設置に向けて実施したアンケート調査の結果を解析し、両大学に設置される新共同研究科における入学定員の妥当性を検討した。

## (2) アンケート調査の実施

入学定員の設定に当たり、学生の確保の見通しを明らかにするため、平成28年10月から11月にかけて、山口大学及び鹿児島大学共同獣医学部在学学生（3～6年生）、社会人（47 獣医師会、49 地方自治体、47 NOSAI 連合会、33 関連企業等）、国内外獣医系大学（14 国内大学、6 国外大学）を対象とし「共同獣医学研究科設置に関するアンケート」を行い、表4のとおり2,351人からの回答を得た。

表4：対象別の回答者数

区 分	回答者数 (人)
農学部獣医学科6年、及び共同獣医学部獣医学科3～5年在学学生	224
自治体、NOSAI、動物病院、及び獣医関連企業等)	1,800
国内外獣医系大学	327
計	2,351

## (2-1) 在学生へのアンケート調査の結果

在学生を対象に将来の希望する進路について質問（複数回答可）したところ、動物病院（イヌ・ネコの診療等）が最も多く、次いで公務員が多かった。進学（博士課程や海外の大学等への進学）を選択肢の一つとして考えている学生が、山口大学 19 人（全体の 18%）、鹿児島大学 20 人（全体の 17%）いることがわかった（表 5）。

表 5：将来希望する進路（複数回答可）（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2 大学計
動物病院（イヌ・ネコの診療等）	61	64	125
公務員（県庁や農林水産省等）	38	40	78
民間企業（飼料・製薬会社等）	19	22	41
共済組合（ウシ・ブタの診療等）	18	29	47
進学（博士課程や海外の大学等）	19	20	39
その他	12	7	19
合 計	167	182	349

表 6：充実が必要と考える分野（複数回答可）（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2 大学計
基礎獣医学	30	40	70
動物衛生・公衆衛生獣医学	29	48	77
伴侶動物獣医学	22	35	57
産業動物獣医学	20	30	50
その他	0	6	6
合 計	101	159	260

表 7：大学院への内部進学志向（単位：人）

区 分	山口大学共同 学部在学生の 同大学共同研 究科への入学 希望者	鹿児島大学共 同学部在学生 の同大学共同 研究科への入 学希望者	2 大学在学生 の共同研究科 への入学希望 者
進学したい(A)	2	2	4
将来的に進学したい(B)	7	8	15
就職後進学したい(C)	16	17	33
進学したいが事情により困難	14	20	34
希望しない	46	43	89
わからない、その他	22	27	49
合 計	107	117	224
<b>1 年あたりの新規内部進学者見込者数</b>	<b>-0.6</b>	<b>2.0</b>	<b>1.4</b>

※ 上記は 4 学年のアンケート総数であり、1 年あたりの新規母校進学見込者数は、(A) を 4 学年で除した数に、(B) 及び(C) を 10 年間で進学するものとして除した数を、加算した上で、山口連獣の平均一般進学者数（山口大 3.4 人、鹿児島大 1.0 人、両大学 4.4 人）を差し引いた数値である。

大学院教育（博士課程）において充実が必要な分野に関する質問（複数回答可）では、動物衛生・公衆衛生獣医学が最も多く、次いで基礎獣医学が多かった。臨床獣医学分野については、伴侶動物と産業動物分野が同程度を示した（表6）。

在学生の進学志向に関する質問では、「大学院へ進学したい」、「将来的に進学したい」、「就職後進学したい」、「進学したいが事情により困難」と回答した者から算出される1年あたりの新規母校進学者は、山口大-0.6人、鹿児島大学2.0人、合計1.4人と見込まれた（表7）。

## （2-2）社会人へのアンケート調査の結果

本共同獣医学研究科では、社会人について積極的に受け入れることとしており、そのニーズを把握するため、獣医関係社会人（全国の獣医師会、地方自治体、NOSAI、関連企業等）を対象として、アンケート調査を実施した。

大学院教育（博士課程）において充実が必要な分野に関する質問（複数回答可）では、応用獣医学分野とする回答が最も多く、次いで臨床獣医学分野が多かった（表8）。

博士（獣医学）の需要に関する質問では、「増える」と回答した者が22.3%であり、社会人の4人に1人が博士（獣医学）の学位取得の必要性を肯定していることが示された（表9）。

表8：充実が必要と考える分野（複数回答可）

区 分	回答者数（人）
基礎獣医学（解剖・生理・薬理等）	786
応用獣医学（病理・感染症・食肉衛生等）	1,425
臨床獣医学（内科・外科・繁殖等）	965
その他	120
合 計	3,296

表9：獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要

区 分	回答者数（人）
増える(A)	399
変わらない	684
減る	109
わからない	591
合 計(B)	1,783
獣医学における博士課程の必要性(A)/(B)	22.3%

働きながら就学できる大学院の必要性に関する質問では、「絶対に必要」、「必要」、「どちらかといえれば必要である」と回答した者が90.9%であり、社会人の大学院への進学志向が非常に高いことがわかった。このことから、学部卒業後、一旦、就職し、実務に従事する中で、様々な課題に直面し、大学院での教育を受けて専門性を高め、更なる知識・技術を習得したいと考えている社会人が多いことが想定された（表10）。

表 10 : 仕事をしながら就学できる大学院の必要性

区 分	回答者数 (人)
絶対に必要だと思う (A)	218
必要だと思う (B)	841
どちらかという必要だと思う (C)	569
必要と思わない	132
その他	30
合 計 (D)	1,790
大学院の必要性 ((A)+(B)+(C))/(D)	90.9%

地域密着型の共同研究科を設置することによって、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数が増えることが期待される。山口県と鹿児島県に在住の社会人によるアンケート結果によると、新たな山口県在住社会人の山口大学入学希望者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学入学希望数は、それぞれ山口大学-0.1人、鹿児島大学0.5人の増となった(表11)。また同アンケートにおいて、全国から本共同獣医学研究科への社会人入学希望者数は5.8人であり、山口連獣における2大学への入学者実績(最近5年間の平均で5.8人/年)と同程度の社会人入学者数が期待できると考えられた(表11)。

表 11 : 山口大学と鹿児島大学による共同獣医学研究科への入学希望

(単位:人)

区 分	山口県在住 社会人の山口大 学共同大学院へ の入学希望者	鹿児島県在住 社会人の鹿児島 大学共同大学院 への入学希望者	全国社会人 の共同大学 院への入学 希望者
入学したい(A)	1	1	4
将来的に入学を検討したい(B)	4	16	54
入学したいが経済的に困難	1	21	104
入学したいが時間的に困難	8	29	220
入学したいがその他の理由で困難	1	0	60
希望しない	67	136	1,332
未回答、その他	7	0	92
合 計	90	203	1,800
<b>*1年あたりの県内の新規社会人入学者見込者数</b>	<b>-0.1</b>	<b>0.5</b>	<b>0</b>

※ 1年あたりの新規社会人見込者数は、(A)及び(B)が10年間で進学するものとして、(A)と(B)の和を10で除した値から、山口連獣の社会人入学者の5年平均値のうち、山口県在住社会人の入学者数(0.6人)、鹿児島県在住社会人の入学者数(1.2人)、及び全国からの社会人入学者数(5.8人)を差し引いた数値である。

### (2-3) 国外獣医系大学へのアンケート調査の結果

山口連獣の修了生による海外ネットワークを活用しながら、新たな共同獣医学研究科にも海外からの多くの留学生を引き続き入学者として受け入れることができると期待されている。同海外ネットワークを通じて行った外国人を対象としたアンケート結果では、留学生の共同研究科への入学希望者数は13.9人であり、山口連獣の留学生入学者数の5年実績（2大学で平均4.4人/年）を差し引くと、新たに9.5人の新規留学生の入学希望者が見込まれる（表12）。これは、おそらく経済的な理由により実質的な数値とは言えないものの、大学推薦国費留学生の活用等、経済的支援によりその増数は期待できる。

表12：新規留学生見込数

区 分	留学生の 共同大学院への入 学希望者数（人）
入学したい(A)	139
希望しない	32
合 計 (D)	171
入学したい (A)/(D)	81.3%
<b>*山口連獣修了者のいる海外の獣医系大学からの1年あたりの新規留 学生入学者見込者数</b>	<b>9.5</b>

※ 新規留学生見込者数は、(A)が10年間で進学するものとして(A)を10で除した値から、山口連獣の留学生入学者数の5年平均（2大学平均4.4人）を差し引いた数値である。

また教員または研究者として国外の獣医系大学で勤務している山口連獣修了者に対して行った『山口大学大学院・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科を勧めますか』という質問に対して、100%が勧めると回答している（表13）。

表13：国外獣医系大学における学生への入学推奨

区 分	回答者数（人）
勧める(A)	13
勧めない	0
合 計 (B)	13
入学を勧める (A)/(B)	100%

#### ウ) 学生納付金設定の考え方

学生納付金については、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年3月31日文科科学省令第16号）に基づき、同省令に掲げる授業料、入学料及び検定料の額を標準とし、各大学において設定する。



## ②学生確保に向けた具体的な取組状況

### (1) 学生の確保

山口大学と鹿児島大学は、我が国の獣医学教育モデル・コア・カリキュラムよりも幅広い知識と実践的な獣医技術の付与を求める欧米水準の獣医学教育認証取得を目指した学士課程教育を形成している。この教育認証は、学士課程を補い強化するための卒業後教育プログラムとして、研究者養成を目的とする PhD プログラムだけでなく、獣医専門職、認定医・専門医プログラム、及びインターンシップ等、獣医師への多様な国際社会ニーズに対応した卒業後教育を提供することを求めている。

新たな共同獣医学研究科においては、欧米水準の幅広い獣医学的知識と技能を身につけた獣医学士課程修了者の求める多様な進路選択に対応するとともに、学生確保に向けた具体的な取組として欧米水準の獣医学士課程を修了していない獣医師・獣医学研究者へも総じて、専門的技術と能力を研鑽できる高度獣医学専門家養成プログラムを提供する。具体的には、以下の点で、戦略的かつ意欲的なプログラムを想定している。

共同獣医学研究科では、高度な研究者養成に重点を置く研究者養成のための「獣医科学コース」に加え、実験動物医学・病理学等の専門医取得あるいは附属動物病院における卒業臨床研修と、大学院における研究及び学位取得とを両立できる「獣医専修コース」を、国内の獣医系大学に先んじて開設する。

また、獣医療系の職場や家畜保健衛生／保健福祉行政等の職場などで経験を積む社会人獣医師についても、いわゆる 14 条特例を適用し積極的に受け入れること及び必要に応じて集中講義や実習を行うこと等を適切に周知する。地理的に遠隔地にある 2 大学による教育を効果的に行うため、共同獣医学部教育で使用している遠隔講義システムを活用した教育を行う。同じく、Web マルチメディア LMS (Learning Management System の略) である Glexa (グレкса) を活用して、クラス・学生管理、教材・問題管理、試験・成績管理、会話・面接学習、協調学習、動画学習、モバイル学習を行う。校地外にいる大学院生に対してもストリーミング配信を使用して教員・学生間でのビデオチャットや授業配信、あるいは受講した試験やテスト、レポートの採点を行うことが容易に行えるようになり、新共同研究科への社会人入学者数の確保に役立てる。

## II 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

山口大学と鹿児島大学は、共同獣医学部における教育の方法と内容を国際水準のものとするべく、EAEVE（欧州獣医学教育評価機構、European Association of Establishments for Veterinary Education の略）による認証取得に向けて教育改革を推進している。次のステップとして、欧米の獣医学教育に必須とされる「学部卒業者に対して学士課程を補い強化するための Advanced Postgraduate Degree Program の提供」に向けて、多様な教育システムの創出に、我が国の獣医学教育機関として初めて取り組む。

世界先端的な獣医学研究を推進し、生命・研究への高い倫理観を備えた先導的獣医学教育・研究者の養成とともに、地域・国際社会における多様な獣医学的課題解決に求められる高度な知識・技能・実務経験を備えた獣医学専門家及び指導的獣医療人を養成して、人間地球社会の発展に貢献することを目的としている。

### ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### ア) 人材需要の動向と社会の要請（まとめ）

##### 【大学等における教員及び研究者としての需要】

国内の全獣医系大学には、我が国の獣医学教育モデル・コア・カリキュラム、及び参加型臨床実習を自大学の教員によって実施できる体制を構築すべく、大学院における獣医系教員の養成に一層力を注ぐことが求められている。

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal からの提供データによると、平成 23～27 年度の農学・動物生命科学分野の大学教員（助教相当）／研究員／ポスドク求人数は年平均 56.0 人であり（参考資料 1）、獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議が示した平成 21～24 年度の全国獣医系大学院修了者の大学・研究機関研究職就職者数の年平均 36.5 人（参考資料 2）を大きく上回っており、この分野における研究者需要は未だ高いことが見込まれる。

山口大学大学院共同獣医学研究科及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科における入学定員は、山口大学 6 人、鹿児島大学 6 人と設定している。JREC-IN Portal からの同提供データによると、山口県及び鹿児島県における獣医系大学院修了者が応募対象となる研究者求人数の年平均はそれぞれ 4.2 人及び 3.8 人となっており（参考資料 3）、本共同獣医学研究科修了者のうち各大学における研究職志望者数（全体 6 人の 30%に相当）2 人を十分に上回る。

##### 【社会人及び留学生修了者の需要】

JREC-IN Portal からの同提供データによると、民間企業からの研究者求人数は年平均 2.8 人と非常に少ない。その一方で、同協力者会議が示したデータでは、年平均 52.8 人の修了者が企業等（開業獣医師、公務員、民間会社等）に就職している。すなわち、企業等においては、修了者を新規採用として求人するよりも、社員を社会人学生として大学院に入学させ、修了後も前職に復帰させる傾向が高いことがうかがわれる。これと同様に、同協力者会議が示した大学院修了者の 25.2%は、留学者の大学院修了生も母国で活躍する国際的な人材需要となっている。山口大学大学院共同獣医学研究科及び鹿児島大学大学院共同獣医学研究科における入学定員のうち、大学等での研究者志望者（毎年 2 人と仮定）を差し引いた 4 人は、社会人または留学者需要に相当する。

以上のことから、大学等の研究者需要、企業等からの社会人修了者需要、及び海外の研究機関からの留学生修了者の需要は、過去の山口連獣の実績と同様、本共同獣医学研究科の修了者数に対して十分であると見込まれる。

【山口連獣の実績から新規に見込まれる人材需要】

これまでの山口連獣における2大学の実績においては、過去5年間の平均修了者数は、山口大学6.6人、鹿児島大学3.8人、合計10.4人となっており、今後、少なくとも同程度の社会的需要はあると見込まれている（表15）。

山口連獣における実績が山口大学に比して少なかった鹿児島大学においては、鹿児島大学で主指導を受けた山口連獣修了者を採用したことがある企業等（主に九州地区の企業、及び鹿児島大学卒業生の企業等）を中心にしたアンケート追加調査を実施した。その結果においては、企業等による獣医学分野の博士人材の採用の可能性は極めて高く、新規に見込まれる大学院博士課程修了者の採用者数は、鹿児島大学において1年あたり3.7人であると推計された（表21）。

前記のように、社会人が修了後に勤務先に戻り活躍することも人材需要と考えられる。地域密着型の共同研究科を設置することによる、大学院の設置される都道府県からの社会人入学者数の見込み増を勘案すると、1年あたり、山口大学-0.1人、鹿児島大学0.5人、合計0.4人となる（表25）。

また、留学生が母国で活躍することを国際的な人材需要と考えると、入学志願者数が即ち海外での人材需要となり、2大学への新たな留学生入学志願者数、毎年9.5人が国際的な需要と見込まれる（表26）。

以上、表14に示すように、山口連獣の実績に加え、上記の新規人材需要データに基づき、山口大学6.5人、鹿児島大学8.0人、2大学で19.9人の人材需要が新たに見込まれることから、本共同獣医学研究科における入学定員規模の進路は恒常的かつ安定的に確保されると想定される。

表14：総表（1年あたり）

（単位：人）

区 分	山口大学	鹿児島大学	2大学
山口連獣修了者の実績(表15)	6.6	3.8	10.4
新規に見込まれる企業等の人材需要(表21)	—	3.7	—
社会人の動向（前職復帰）に基づく新規人材需要(表25)	-0.1	0.5	0.0
留学生の動向（帰国）に基づく新規人材需要(表26)	—	—	9.5
合 計	6.5	8.0	19.9

イ) 人材需要の動向等を踏まえた客観的な根拠

(1) 人材の養成に関する社会的な要請

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal（研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト）からの提供データに基づき、農学・動物生命科学分野における平成23～27年度の大学教員（助教相当）／研究員／ポスドクの求人状況を解析した。下表（参考資料1）に示すように、獣医系大学院修了者が応募の対象となる研究者求人数は、45～82人／年（年平均56.0人）となっている。また民間企業からの研究者としての求人数は少なく（全体の5%）、企業等では、社員を社会人学生として大学院に入学させ、修了後は前職に復帰する傾向が高いことがうかがわれる。

参考資料 1. : 研究機関別の大学助教相当／研究員／ポストクの求人状況 (単位：人)

年度	国立大学	私立大学	公立大学	民間企業	計
平成 23 年度	33	9	2	1	45
平成 24 年度	26	14	2	3	45
平成 25 年度	55	24	0	3	82
平成 26 年度	33	18	1	2	54
平成 27 年度	39	10	0	5	54
平均	37.2	15.0	1.0	2.8	56.0

「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」が実施した大学院進学者に関する追跡調査の分析結果によると、平成 21～24 年度の修了者数は 477 人（日本人 359 人、留学生 118 人、年平均 119.3 人）、学位取得者は 426 人（日本人 315 人、留学生 111 人、年平均 106.5 人）となっている。大学院修了者の 30.6%にあたる 146 人、1 年あたり平均に換算すると 36.5 人が、大学・研究機関の研究職として就職しているが、上記の JREC-IN Portal 提供データにおける研究者の年平均求人数 56.0 人には達しておらず、この分野における研究者の需要は未だ高いことが見込まれる。

参考資料 2. : 平成 21～24 年度の国内獣医系大学院の修了者の就職状況

職種	大学の研究職	小動物獣医師	大動物獣医師	公務員／農林水産	公務員／公衆衛生	公務員／その他	会社／食品・製薬	会社／その他	その他	計
修了者数 (A) (人)	146	55	12	16	30	8	70	20	120	477
(A) / 4 年 (%)	30.6	11.5	2.5	3.4	6.3	1.7	14.7	4.2	25.2	100

※ 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議資料より引用（平成 25 年 12 月、第 14 回）

同協力者会議において、「大学院の充実に関する議論の際も、獣医師養成を目指す学部段階の教育を国際的な水準に到達させることが強く意識され、大学院教育を充実させるべき理由として第一に挙げられたのが、教育体制の整備、なかんずく十分な数の教員を確保することの重要性」が議論されている。即ち国内の全獣医系大学において、モデル・コア・カリキュラムを自大学に所属する教員で実施する体制を構築すべく、大学院における教員養成に一層力を注ぐべきとの指摘があり、特に、学部段階の教育の充実という観点から参加型臨床実習の展開が急務とされていることを踏まえ、適切に学生を指導できるよう、全国的に不足が叫ばれているこの分野の大学教員の養成と確保に取り組むことが求められている。共同獣医学研究科では、両大学共同獣医学部からの内部進学者を修了させ、次世代を担う欧米水準の教育研究者として養成することを企図している。

加えて、企業等における研究者として学位取得者を就業させなければならない。山口大学では西日本、鹿児島大学では九州を中心とした自治体や企業等から入学する社会人学生を受け入れ、製薬会社等の動物実験専門家、あるいは食肉検査所等における病理学専門家としての知識や技術も身につけて、課程修了後は前職に復帰して、同企業等組織内における後進の研究指導、及び各共同獣医学研究科への新たな

入学者の基盤を担う。また留学生は母国に帰国して、自国の研究者・あるいは教育者として活躍するとともに、共同研究科修了生による海外ネットワークを拡げて、新たな留学生を共同研究科へと導く。

## (2) 山口連獣における修了者の実績

平成23年度から27年度における山口連獣の両大学の修了者実績としての平均修了者数は、山口大学6.6人、鹿児島大学3.8人であった。ただし、修了者数は年度によりばらつきがあり、これは女子学生の増加による出産等で休学する学生が増えたこと、社会人学生が経済的理由により4年間で修了できないケースが増えたことによるものと考えられる。修了者の進路状況では、診療獣医師を含む民間企業等の獣医師及び研究者が24人（山口大学15人、鹿児島大学9人）と突出して多いが、それに次いで大学における教員や研究者が11人（山口大学8人、鹿児島大学3人）となっている（表15、16、17）。

表15：山口連獣における修了者の実績

(単位：人)

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合 計	平 均
山口連獣全体	20	22	20	20	7	89	17.8
山口大学	7	5	8	9	4	33	6.6
鹿児島大学	8	3	3	4	1	19	3.8
2大学計	15	8	11	13	5	52	10.4

※山口大学及び鹿児島大学は、両大学配置の学生数で、山口連獣全体の内数である。

表16：修了者進路別内訳

(単位：人)

区 分		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合 計
大 学	山口大	3	0	2	2	1	8
	鹿児島大	1	0	1	0	1	3
公務員 (研究所等)	山口大	0	0	0	0	1	1
	鹿児島大	0	0	1	0	0	1
民 間	山口大	3	3	3	5	1	15
	鹿児島大	5	2	0	2	0	9
団体等	山口大	0	0	1	0	0	1
	鹿児島大	1	0	0	1	0	2
海 外	山口大	1	0	1	2	1	5
	鹿児島大	0	1	1	1	0	3
未 定	山口大	0	0	0	0	0	0
	鹿児島大	0	0	0	0	0	0
その他	山口大	0	2	1	0	0	3
	鹿児島大	1	0	0	0	0	1
計	山口大	7	5	8	9	4	33
	鹿児島大	8	3	3	4	1	19
2大学計		15	8	11	13	5	52

国立研究開発法人科学技術振興機構 JREC-IN Portal から提供された農学・動物生命科学分野における平成 23～27 年度の大学教員（助教相当）／研究員／ポストクの求人状況によると。下表（参考資料 3）に示すように、山口県及び鹿児島県における獣医系大学院修了者が応募の対象となる研究者求人数は、それぞれ一年間あたり 4.2 人及び 3.8 人となっている。山口連獣における山口大学と鹿児島大学の修了者の実績によると、1 年あたり 1～2 人の修了者が大学等の研究者として就職しているが、各県における研究者としての求人数はそれを上回っている。また学生定員を各大学 6 人とした場合、修了者の 30%（平成 21～24 年度の国内獣医系大学院の修了者数 477 人の 30.6%が大学の研究者として就職している）にあたる 2 人が大学等の研究者となることを想定しても、各県の求人数はそれを上回ることが見込まれる。

参考資料 3. : 山口県及び鹿児島県における研究機関別の大学助教相当／研究員／ポストクの求人数(人)

年度	山口県	鹿児島県	計
平成 23 年度	2	3	5
平成 24 年度	2	1	3
平成 25 年度	12	5	17
平成 26 年度	3	3	6
平成 27 年度	2	7	9
平均	4.2	3.8	8.0

また同提供データに基づき解析した、岡山・広島・山口・島根県、四国地区、及び九州地区における農学・動物生命科学分野の大学教員（助教相当）／研究員／ポストクの求人状況（参考資料 4）では、岡山・広島・山口・島根県、四国地区の年平均求人者数が 6.2 人、九州地区の年平均求人者数が 7.8 人となっている。上記のように、山口連獣における修了者の実績（各大学から 1 年あたり 1～2 人の修了者が研究者として就職）と比較すると、各大学の周辺県における研究者としての求人数はそれを十分に上回っていることが見込まれる。また学生定員を各大学 6 人とした場合、修了者の 30%にあたる 2 人が大学等の研究者となることを想定しても、各県周辺地区の研究者求人数はそれを上回ると見込まれる。

参考資料 4. : 岡山・広島・山口・島根県、四国地区、及び九州地区における研究機関別の大学助教相当／研究員／ポストクの求人数 (人)

年度	岡山・広島・ 山口・ 島根・四国	九州	計
平成 23 年度	4	7	11
平成 24 年度	2	5	7
平成 25 年度	13	6	19
平成 26 年度	6	7	13
平成 27 年度	6	14	20
平均	6.2	7.8	14.0

表 17：山口連獣における最近の具体的な進路先

区分	ア 研究者	イ 大学教員	ウ 獣医師	その他・未定
山口大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H23】(1)</li> <li>・山口大学</li> <li>【H24】(3)</li> <li>・大日本住友製薬(株)</li> <li>・昭和電工(株)</li> <li>・大塚製薬(株)</li> <li>【H25】(2)</li> <li>・大阪大学微生物病研究所</li> <li>・(一財)化学物質評価研究機構</li> <li>【H26】(4)</li> <li>・山口大学(阪大研修)</li> <li>・日本全薬工業(株)</li> <li>・(一財)化学及び血清療法研究所</li> <li>・(株)ボゾリサーチセンター</li> <li>【H27】(2)</li> <li>・和歌山県立医科大学</li> <li>・国立感染症研究所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H23】(3)</li> <li>・宮崎大学農学部</li> <li>・山口大学共同獣医学部</li> <li>・ペシャワールヘッドルポフトンフ</li> <li>・ア農科大学獣医学部</li> <li>(パキスタン)</li> <li>【H25】(2)</li> <li>・Southvalley 大学教員</li> <li>(エジプト)</li> <li>・山口大学共同獣医学部</li> <li>【H26】(3)</li> <li>・山口大学共同獣医学部</li> <li>・Vietnam National University,</li> <li>Agriculture (HANOI、ベトナム)</li> <li>・Insit Recherche Ecologi</li> <li>Tropical (IRET/CENAIST)(ガボン)</li> <li>【H27】(1)</li> <li>・西バプア州立大学(インドネシア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H23】(3)</li> <li>・Kyoto AR(京都動物高度医療センター)</li> <li>・寺園動物病院</li> <li>・秋吉サファリランド</li> <li>【H25】(3)</li> <li>・アイデックスラボラト</li> <li>リース(株)</li> <li>・ファミリー動物病院</li> <li>・米子動物医療センター</li> <li>【H26】(2)</li> <li>・高木動物病院</li> <li>・長崎県中央家畜保健衛生所</li> <li>【H27】(1)</li> <li>・(株)Guardian</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H24】(2)</li> <li>・山口県立総合医療センター</li> <li>・日本臓器製薬(株)</li> <li>【H25】(1)</li> <li>・ASKLEP 東京(医薬品/専門コンサルタント)</li> </ul>
鹿児島大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H23】(2)</li> <li>・(一財)化学及び血清療法研究所</li> <li>・(株)新日本科学</li> <li>【H25】(1)</li> <li>・鹿児島大学共同獣医学部</li> <li>【H26】(2)</li> <li>・大塚製薬(株)</li> <li>・大鵬薬品工業(株)</li> <li>【H27】(1)</li> <li>・鹿児島大学共同獣医学部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H23】(1)</li> <li>・鹿児島大学共同獣医学部(病院特任教員)</li> <li>【H24】(1)</li> <li>・チッタゴン獣医動物科学大学</li> <li>(バングラデシュ)</li> <li>【H25】(1)</li> <li>・チッタゴン獣医動物科学大学</li> <li>(バングラデシュ)</li> <li>【H26】(1)</li> <li>・Agricultural University(バングラデシュ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H23】(4)</li> <li>・丸紅畜産生産技術室</li> <li>・Greenfield International Co Ild</li> <li>・折尾動物病院</li> <li>・日本軽種馬協会</li> <li>【H24】(2)</li> <li>・城南さくま動物病院</li> <li>・(有)シェパード中央家畜診療所</li> <li>【H25】(1)</li> <li>・山口県環境保護センター</li> <li>【H26】(1)</li> <li>・鹿児島県曾於農業共済組合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【H23】(1)</li> <li>・ブータン政府農業省</li> </ul>

(3) 企業等へのアンケート調査の結果

獣医学分野の人材を採用している地方自治体、研究機関、農業団体、民間企業等(以下「企業等」という。)に勤務する獣医師にアンケート調査を行った。なお、業種については表 18 のとおりである。

表 18：企業等へのアンケートの業種内訳数

区 分	回答者数(人)
地方自治体	1,149
組合(農業団体等)	327
獣医師関連企業	215
動物病院	131
合 計	1,822

企業等に獣医学分野における大学院教育（博士課程）の社会的需要について、調査を行ったところ、博士の人材養成について 22.3%が増えると考えており、博士（獣医学）の資格を有する人材ニーズがあることが示唆された（表 19）。

表 19：企業等における博士人材のニーズ

区 分	回答者数（人）
増える(A)	399
変わらない	684
減る	109
わからない	591
合 計(B)	1,783
獣医学における博士課程の必要性(A)/(B)	22.3%

鹿児島大学においては、鹿児島大学で主指導を受けた山口連獣修了者を採用したことがある企業等を中心にアンケート追加調査を実施した。本共同獣医学研究科修了生の採用の可能性について、「積極的に採用する」及び「採用する」との回答が 80%であり、高いニーズが示された（表 20）。

表 20：企業等による鹿児島大学共同獣医学研究科修了者の採用の可能性

区 分	回答機関数
積極的に採用する(A)	33
採用する(B)	7
採用する可能性がある	7
採用しない	0
その他	3
合 計(D)	50
採用の可能性 ((A)+(B))/(D)	80%

上記のアンケートを踏まえ、以下の推計を行った。アンケートに回答のあった企業等のみにおいても、1年あたり鹿児島大学 3.7人、博士課程修了者の採用が見込まれる（表 21）。

表 21：企業等における鹿児島大学共同獣医学研究科修了者への新たなニーズ

区 分	回答機関数
積極的に採用する(A)	33
採用する(B)	7
採用する可能性がある	7
(A)×1.0+(B)×0.5	36.5
1年あたりの企業等での新たな需要数 [(A)+(B)+(C)]/10年	3.7人

※1 採用人数については、複数人以上の採用も想定されるが1社につき1人とした。

※2 積極的に採用したい(A)を調整数 1.0、できれば採用したい(B)をその半分の調整数 0.5 とし、10年間で採用されるものと想定した。



さらに、数年間における博士人材の採用実績を調査したところ、現状は表 22 のとおりであり、これまでの採用実績（回答企業等の 28%が採用実績有）は高かったとはいえないが、表 21 の調査から今後の採用の可能性は大きく広がっていると考えられる。

表 22：企業等における博士人材の採用実績

区 分	回答機関数
実績なし	34
1 人	8
2 人	5
3 人	0
4 人以上	1
未回答	2
合 計	50

※ 鹿児島大学が行った追加アンケートの結果である。

企業等に勤務する獣医師に、大学院教育（博士課程）において特にどの分野を必要しているか調査をしたところ、表 23 のとおりであった。（複数回答可）

表 23：企業等において必要としている分野（複数回答可）

区 分	回答者数（人）
基礎獣医学（解剖・生理・薬理等）	786
応用獣医学（病理・感染症・食肉衛生等）	1,425
臨床獣医学（内科・外科・繁殖等）	965
その他	120
合 計	3,296

社会人学生は、課程修了後に勤務先に戻ることを新たな需要と見込んで、山口県在住社会人の山口大学入学者数、及び鹿児島県在住社会人の鹿児島大学入学者数の増加分（山口大学-0.1人、鹿児島大学0.5）を、需要増の人数として用いた。ただし、両大学への全国からの共同獣医学研究科への社会人入学希望者数（5.8人）は、山口連獣における2大学の実績（5.8人）と同数であったため、これによる需要増とはならなかった（表 24、25）。

表 24：大学院の設置される都道府県の社会人、及び全国の社会人入学の希望（単位：人）

区 分	山口県在住 社会人の山口大 学共同大学院へ の入学希望者	鹿児島県在住 社会人の鹿児島 大学共同大学院へ の入学希望者	全国社会人 の共同大学 院への入学 希望者
入学したい(A)	1	1	4
将来的に入学を検討したい(B)	4	16	54
合 計 (C)	5	17	58
1年あたりの入学希望者 [(C)/10年]	0.5	1.7	5.8

表 25 : 社会人が前職に戻ることにによる需要

(単位：人)

区 分	山口県在住 社会人の山口大 学共同大学院へ の入学希望者	鹿児島県在住 社会人の鹿児島 大学共同大学院 への入学希望者	全国社会人 の共同大学 院への入学 希望者
山口連獣の社会人入学者実績 (A)	0.6	1.2	5.8
共同獣医学研究科への社会人の新たな 入学希望者 (B)	0.5	1.7	5.8
共同獣医学研究科を修了した社会人が 派遣元に戻ることにによる新たな需要数 (B)-(A)	-0.1	0.5	0.0

※1 (A)は、山口連獣の過去5年間の社会人入学者の平均実績である。

※2 (B)は、アンケートの推計による社会人の入学希望者数(表24)である。

※3 (B)には、(A)が含まれることを勘案し、(B)より(A)を差し引いた。

## (4) 国外獣医系大学へのアンケート調査の結果

本共同研究科における国際的な需要の主要要素として入学した留学生は、全て母国で活躍するものとし、山口連獣の過去5年間の実績を基に推計した。その結果、毎年度、新たに留学生9.5人が国際社会で活躍するものと見込まれる(表26)。

表 26 : 新規留学生見込数(再掲)

区 分	機関数/人数
アンケート実施機関数 (A)	6 校
(A)からの留学生入学者見込み数 (B)	13.9 人
山口連獣における2大学の留学生入学者数実績 (C)	4.4 人
共同研究科を修了した留学生が母国に戻ることにによる新たな需要数 (D)	9.5 人

※1 (A)は、山口連獣の修了生の勤務する大学や研究機関である。

※2 (B)は、外国人学生に対するアンケートの推計による留学生の入学希望者数(表12)である。

※3 (B)には、(C)が含まれることを勘案し、(B)より(C)を差し引いて、(D)を算出した。

# 資 料

- 資料 1 山口大学・鹿児島大学共同獣医学研究科設置に関する  
アンケート調査票
- 資料 2 山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科構想  
(アンケート調査実施時に配付)

平成 28 年 11 月 1 日

関係機関および部局長 殿

山口大学・鹿児島大学大学院  
共同獣医学研究科設置合同準備委員会  
岩田祐之（山口）・三角一浩（鹿児島）山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科設置に関する  
アンケート調査の依頼について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、大学教育にご助言とご指導を賜りありがとうございます。

さて、このたび山口大学と鹿児島大学は、長きに渡って多くの獣医学博士を輩出してきた山口大学大学院連合獣医学研究科を発展的に解消し、平成 30 年 4 月より両大学に新たな獣医学研究科を設置し、共同で大学院を運営する組織作りを進めています。全国で初の取り組みとなる『共同獣医学研究科』では、両大学の獣医学研究者が一丸となって、各大学特有の教育研究資源を活かした地域の諸課題解決に資する研究を展開すると共に、両大学が得意とする研究領域から先進的な知見を相互補完的に教授することで、先端的な獣医学研究を俯瞰できる人材を養成します。共同獣医学研究科では、学部教育と同様に遠隔講義システムを使用して、授業の実質化を担保すると共に、国内外の連携機関における演習や実験、獣医学を含む専門性の高い学会での発表を推進して、国内外の生命科学界において幅広く活躍できる能力を培います。

このたびの共同獣医学研究科の設置に向けて、その教育研究内容等を充実させるための参考資料とすることを目的に、アンケート調査を実施することとなりました。このアンケートは、地方自治体、獣医師会、獣医関連企業、ならびにこれまで私どもの大学から卒業した学生の就職先へ配布させていただいております。ご多忙の中おそれ入りますが、同封のアンケート用紙へご記入の後、機関毎にとりまとめのうえ、同封の封筒にて 11 月 30 日までにご返送くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、共同獣医学研究科の詳細につきましては、添付の資料『山口大学・鹿児島大学大学院共同獣医学研究科構想』をご覧下さい。

敬具

## 調査対象

- ①全国獣医系大学
- ②地方獣医師会（伴侶動物病院への依頼を含む）
- ③地方自治体（全国都道府県、鹿児島市、山口市）  
畜産課・家畜保健衛生所等、生活衛生課・食肉衛生検査所等、獣医師の勤務する支所等
- ④獣医関連企業（全国 NOSAI 連合会、全国 JA 連合会）  
産業動物獣医師が勤務する NOSAI 支所および診療所等
- ⑤両大学共同獣医学部在校生（3年生以上）
- ⑥海外の獣医学教育研究機関

書類送付先 〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21番24号  
鹿児島大学共同獣医学部総務係気付「共同獣医学研究科設置準備室」宛

## 問合せ先

山口大学共同獣医学部 教授 岩田祐之 宛

Tel: 083-933-5899, Fax: 083-933-5900, E-mail: hiwata@yamaguchi-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部 教授 三角一浩 宛

Tel: 099-285-8731, Fax: 099-285-8732, E-mail: kaz\_msm@vet.kagoshima-u.ac.jp

## 1. 全国獣医系大学

### アンケート回答者について

- 回答者の役職・職務等をお選びください。

1. 教授 2. 准教授 3. 講師 4. 助教 5. その他 ( )

1. 獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

1. 増える 2. 今と変わらない 3. 減る 4. わからない

2. 今後どのような獣医学研究者が必要であると思いますか？（複数回答可）

1. 基礎獣医学 2. 動物衛生・公衆衛生獣医学 3. 伴侶動物獣医学  
4. 産業動物獣医学 5. その他 ( )

3. 我が国の獣医学の大学院教育は今以上の質の向上が必要であると思いますか？

1. 必要である 2. 必要でない 3. わからない

3-2. 「必要である」と回答された場合、以下の質問にお答えください。

質の向上には、どのような教育の改善が必要だと思いますか？（複数回答可）

1. 教育研究内容の高度化 2. 教育研究範囲の拡大 3. 履修単位数の増加  
4. 関連科目の必修単位化  
5. その他 ( )

4. 獣医学研究科の質向上を実践するにはどのような方法が望ましいと思いますか？（複数回答可）

1. 授業カリキュラムの充実 2. 教員の質の向上 3. 研究機材の充実  
4. 研究フィールドの充実  
5. その他 ( )

5. 将来の獣医学研究科の充実にはどのような方法が最も理想的だと思いますか？

1. 各大学での自助努力 2. 大学間での連携教育 3. 大学間での再編統合  
4. その他 ( )

6. その他ご意見を自由にお書き下さい。

[ ]

②獣医師会（動物病院含む）、③地方自治体、④獣医師関連企業

アンケート回答者について

- 所属機関：1. 獣医師会 2. 動物病院 3. 自治体 4. 獣医師関連企業  
5. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
  - 所属機関が所在する都道府県：（ \_\_\_\_\_ ）
  - 獣医師ですか？： 1. はい 2. いいえ  
獣医師の場合は、経験年数を記入してください。（ \_\_\_\_\_ 年）
  - 回答者の役職・職務等について記入ください。（ \_\_\_\_\_ ）
  - 博士（獣医学）について記入してください。
    1. 博士号を持っている
    2. チャンスがあれば将来的に博士号を取得したい
    3. 博士号は特に必要としない
1. 獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？  
1. 増える 2. 今と変わらない 3. 減る 4. わからない
2. 獣医学の大学院教育にはどのような専門分野が必要だと思いますか？（複数回答可）  
1. 基礎獣医学（解剖・生理・薬理等） 2. 応用獣医学（病理・感染症・食肉衛生等）  
3. 臨床獣医学（内科・外科・繁殖等）  
4. その他（ \_\_\_\_\_ ）
3. 我が国の獣医学の大学院教育は今以上の質の向上が必要であると思いますか？  
1. 必要である 2. 必要でない 3. わからない
- 3-2. 「必要である」と回答された場合、以下の質問にお答えください。  
質の向上には、どのような教育の改善が必要だと思いますか？（複数回答可）  
1. 教育研究内容の高度化 2. 教育研究分野の拡大 3. 履修単位数の増加  
4. 関連科目の単位化  
5. その他（ \_\_\_\_\_ ）
4. 仕事をしながらでも大学院で就学できる大学院の必要性についてお答えください。  
1. 絶対に必要だと思う 2. 必要だと思う 3. どちらかというが必要だと思う  
4. 必要とは思わない 5. その他（ \_\_\_\_\_ ）

5. 伴侶動物の高度獣医学を特徴とする山口大学と、動物衛生及び産業動物獣医学を重点化する鹿児島大学は、生命科学、衛生獣医学、及び臨床獣医学の幅広い研究分野に対応できる共同獣医学研究科（4年制博士課程）の設置を計画しています。両大学による共同大学院への入学についてお答えください。

1. 入学したい
2. 将来的に入学を検討したい
3. 入学したいが、次の理由により困難である
  - (1) 経済的な理由のため
  - (2) 時間的な理由のため
  - (3) その他（ ）
4. 入学を希望しない
5. その他（ ）

6. その他ご意見を自由にお書き下さい。（DVM-PhD コース\*、獣医専門職養成コース、獣医系大学・大学院教育に求めることなど）

\*DVM-PhD コース：医学部・医学系研究科の MD-PhD コースと同様、6年獣医学課程に大学院博士課程を組み込んで修了するカリキュラムであり、早期に獣医学研究に取り組み、獣医学博士の取得を支援。

[ ]



## ⑤両大学在校生

### アンケート回答者について

- 何年生ですか？ 1. 3年生 2. 4年生 3. 5年生 4. 6年生
- どちらの大学ですか？ 1. 鹿児島大学 2. 山口大学

#### 1. 獣医師としてどのような進路を目指していますか？（複数回答可）

1. 動物病院（イヌ・ネコの診療等）
2. 公務員（県庁や農林水産省等）
3. 民間企業（飼料・製薬会社等）
4. 共済組合（ウシ・ブタの診療等）
5. 進学（博士課程や海外の大学等）
6. その他（ ）

#### 2. 獣医学における大学院教育（博士課程）の社会的需要は、今後増えると思いますか？

1. 増える
2. 今と変わらない
3. 減る
4. わからない

#### 3. 今後どのような獣医学研究者が必要であると思いますか？（複数回答可）

1. 基礎獣医学
2. 動物衛生・公衆衛生獣医学
3. 伴侶動物獣医学
4. 産業動物獣医学

#### 4. 獣医系の大学院を持つ大学を知っていますか？

1. 全て
2. 半分以上
3. 半分以下
4. 知らない

#### 5. 我が国の獣医学の大学院教育は今以上の充実が必要であると思いますか？

1. 必要である
2. 必要でない
3. わからない

#### 5-2. 「必要である」と回答された場合、以下の質問にもお答えください。

どのような教育分野の充実・強化が必要だと思えますか？（複数回答可）

1. 基礎獣医学
2. 動物衛生・公衆衛生獣医学
3. 伴侶動物獣医学
4. 産業動物獣医学
5. その他（ ）

#### 6. 獣医学の大学院教育の充実には何が必要だと思いますか？（複数回答可）

1. 教員
2. 設備
3. 研究材料
4. カリキュラム
5. その他（ ）

7. 山口大学大学院共同獣医学研究科への進学についてどのように考えていますか？

1. 大学院へ進学したい
2. 将来的に大学院へ進学したい
3. 大学院へ進学したいが、次の理由により困難である
  - (1) 経済的な理由のため
  - (2) 就職を優先したいため
  - (3) その他 ( )
4. 就職した後に大学院への進学を検討したい
5. 大学院への進学を希望しない
6. わからない
7. その他 ( )

8. 鹿児島大学大学院共同獣医学研究科への進学についてどのように考えていますか？

1. 大学院へ進学したい
2. 将来的に大学院へ進学したい
3. 大学院へ進学したいが、次の理由により困難である
  - (1) 経済的な理由のため
  - (2) 就職を優先したいため
  - (3) その他 ( )
4. 就職した後に大学院への進学を検討したい
5. 大学院への進学を希望しない
6. わからない
7. その他 ( )

9. 共同獣医学研究科博士課程では、共同獣医学部生の「DVM-PhD コース」での受入れを検討しています(奨学金制度など)。本コース例として、獣医学課程中に休学し、博士課程(3-4年)に進学し獣医学博士を取得、その後復学して獣医学士(獣医師(DVM)国家試験受験資格)を取得します。このようなコースへの進学についてどのように考えますか？

1. 進学したい
2. 進学したいが、次の理由により困難である
  - (1) 経済的な理由のため
  - (2) 就職を優先したいため
  - (3) その他 ( )
3. 大学院への進学を希望しない
4. わからない
5. その他 ( )

10. その他ご意見を自由にお書き下さい。(DVM-PhD コース、獣医専門職養成コース、獣医系大学・大学院教育に求めることなど)

⑥海外の獣医学教育研究機関

A request for a questionnaire

To Whom It May Concern,

I hope all of you are doing well. I am sending this e-mail to whom Doctoral Course has been completed in the United Graduate School of Veterinary Science, Yamaguchi University.

Although the United Graduate School has produced so many excellent veterinary researchers, we are planning to disband the united school, and then establish a new joint graduate school between Yamaguchi University and Kagoshima University to enhance our educational strength. The new graduate school would be established on the basis of the concept that these two universities' different specialties such as small animal veterinary medicine in Yamaguchi University and large animal veterinary medicine in Kagoshima University. And also, it would make it possible to organize an educational curriculum mutually and complementarily.

Before applying permission for the establishment to government office, we would like to learn your thoughts, therefore, we are obtaining information via this questionnaire. Please answer the following questions, and send the form to the below email address.

Thank you for your cooperation.

Best Regards,

Hiroyuki Iwata  
Vice-Dean,  
Joint Faculty of Veterinary  
Medicine,  
Yamaguchi University  
1677-1 Yoshida, Yamaguchi, 753-8  
511  
Japan

Please check the box on the form.

Q1. Are you an undergraduate student, teacher or researcher?

- Student
- Teacher
- Researcher
- Does not apply ( )

**For Student**

Q2. Do you have a hope to go to the graduate school?

- Yes
- No

Q3. Which fields are you interested in? (multiple answers allowed)

- Basic science
- Preventive medicine of infectious disease
- Advanced technology of veterinary medicine
- Animal production
- Does not apply ( )

Q4. Where do you hope to start postgraduate training?

- Europe and America
- Asia and Japan
- Home country
- Does not apply ( )

Q5. Do you want to go to the joint graduate school between Yamaguchi University and Kagoshima University?

- Yes
- No

**For Teacher or Researcher**

Q2. Do you recommend going to the graduate school?

- Yes
- No

Q3. Which fields do you recommend to your students that they learn in the graduate school? (multiple answers allowed)

- Basic science
- Preventive medicine of infectious disease
- Advanced technology of small animal veterinary medicine
- Animal production of large animal veterinary medicine
- Does not apply ( )

Q4. Where is the recommendation that the students start postgraduate training?

- Europe and America
- Asia and Japan
- Home country
- Does not apply ( )

Q5. Do you recommend going to the joint graduate school between Yamaguchi University and Kagoshima University?

- Yes
- No

平成 29 年 1 月 23 日

関係機関および部局の長 殿

鹿児島大学大学院  
共同獣医学研究科設置合同準備委  
員会

三角

一浩

鹿児島大学大学院共同獣医学研究科設置に関するアンケート調査の依頼について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、大学教育にご助言とご指導を賜りありがとうございます。

さて、このたび山口大学と鹿児島大学は、長きに渡って多くの獣医学博士を輩出してきた山口大学大学院連合獣医学研究科を発展的に解消し、平成 30 年 4 月より各大学に新たな獣医学研究科を設置し、共同で大学院を運営する組織作りを進めています。全国で初の取り組みとなる『共同獣医学研究科』では、学士課程を補い強化するための卒後教育プログラムとして、研究者養成を目的とする博士課程プログラムのみならず、獣医専門職、認定医・専門医プログラム、及びインターンシップ等、獣医師への多様な国際社会ニーズに対応した卒後教育を提供します。具体的には、以下のようなプログラムを想定しています。

1. 共同獣医学研究科では、高度な研究者養成に重点を置く研究者養成のための「獣医科学コース」に加え、実験動物医学・病理学等の専門医取得あるいは附属動物病院における卒後臨床研修と、大学院における研究（学位取得）とを両立できる「獣医専修コース」を、国内の獣医系大学に先んじて、開設します。

2. 生命科学研究への学部学生の興味を喚起し、早期から研究に取り組み、優れた研究者として養成するため、学士課程と博士課程を接続させて、最短 9 年間で獣医学士及び博士（獣医学）を取得させる「学部・研究科接続コース」の開設を模索します。

全ての学生が山口大学を本籍としていた連合獣医学研究科と異なり、共同獣医学研究科の学生は山口大学、又は鹿児島大学のいずれかを本籍校とすることになります。このたびは、鹿児島大学で初めてとなる大学院共同獣医学研究科設置のための参考資料とすることを目的に、アンケート調査（追加）を実施することとなりました。つきましては、ご多忙な中おそれ入りますが、添付のアンケート用紙へご記入の後、メールにて 1 月 31 日（火）までにご返送くださいますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

アンケート回答者について 貴組織名 ( ) 業種 ( )

1. 大学院教育（博士課程）において、獣医学の高度な知識と技術を有する博士人材の養成が、今後の社会に必要とお考えですか？

1. 必要不可欠 2. 必要 3. どちらかという必要 4. 不必要  
5. その他 ( )

2. 貴組織で博士（獣医学）の取得を希望する従事者がいた場合、「鹿児島大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻（博士課程）」への入学を勧めますか？

1. 積極的に勧める 2. 勧める 3. 勧める可能性がある  
4. 勧めない 5. その他 ( )

3. 貴組織の求人募集に「鹿児島大学大学院共同獣医学研究科獣医学専攻（博士課程）」の修了者が応じた場合、採用する可能性はありますか？

1. 積極的に採用する 2. 採用する 3. 採用する可能性がある  
4. 採用しない 5. その他 ( )

4. 現在の採用状況についてお尋ねします。過去数年間における博士課程修了者の採用実績は、何年の間に何名採用されましたか。

( ) 人 / ( ) 年

5. その他ご意見を自由にお書き下さい。

[ ]

問合せ及び返信先

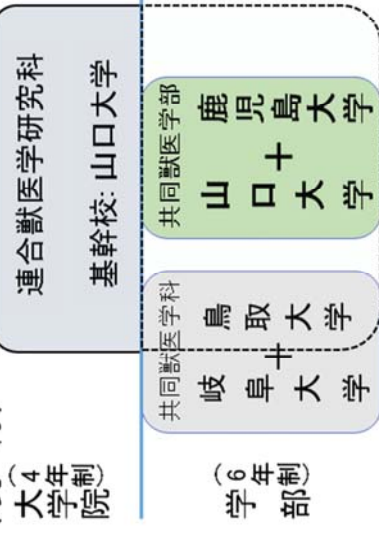
〒8900065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学共同獣医学部 三角一浩 宛

Tel: 099-285-8731, Fax: 099-285-8732, E-mail: kaz\_msm@vet.kagoshima-u.ac.jp

### 設置の趣旨

- 地域社会の課題解決に資する専門性の高い研究を国際的に展開し、世界へ発信できる世界先端的獣医学研究者の輩出。
- 国際社会の多様なニーズに対応できる知識と技能を備えた国際水準の高度専門職業人としての衛生・臨床獣医学専門職の養成。
- 国際水準の獣医学士課程を補い強化するためのAdvanced Postgraduate Degree Programを提供(国際基準の学部教育に立脚した大学院との接続教育を整備)。

### 〈現 行〉



### 〈計 画〉



### 【改革の方向性】 第3次大学院教育振興施策

- 教育の質向上のための規模の確保と機能別分化
- 体系的・組織的な大学院教育と学生の質保証
- 産学官民の連携と社会人学び直しの促進
- 世界市場から優秀な高度人材の誘引

### 【国立大学改革プラン】 第3期中期目標期間

「各大学の強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することにより、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学」

### 【本構想の目的】

- **地域性を活かした研究ワールドの重点化と共有**
  - 獣医学基礎研究コース
  - 病態獣医学研究コース／獣医学専門職養成コース(感染症制御・病性鑑定)
  - 臨床獣医学研究コース／獣医臨床専門教育コース
- **DVM-PhDコース(学部・研究科接続コース)**
- **相互補完による教育の質向上**
  - 地域社会の課題解決に資する産官学連携による教育研究
  - 高度化・国際通用性を備えた実践的・先導的獣医師／獣医学研究者の養成、社会人の学び直し
- **欧米国際認証基準に対応する獣医学教育研究者の養成**
- 英語教育の充実による留学生の受入れ促進